

JMS NOTES



「人と医療のあいだに・・・」

第50期 事業のご報告

2014年(平成26年)4月1日～2015年(平成27年)3月31日

JMS
証券コード 7702

2015年6月、JMSは創立50周年を迎えました。



事業展開

1965年

(株)日本メディカル・サプライ創業



創業者
土谷 太郎 医学博士



本社工場(現大野工場) 竣工

1972年 三次工場 竣工

1973年 韓国の同業メーカーに資本参加
(後に子会社化)

1975年 全国の都道府県に販売網を構築

医療機関で Disposable*化が進み、
医療機器の需要が急速に拡大。

国内・海外に工場を新設・増築し生産能力を増強。

*Disposable: 既に滅菌されており、かつ1回限りの使用で
使いきること。

1978年 出雲工場 竣工

1979年 シンガポールに
生産拠点を設立

1987年 千代田工場 竣工

1988年 中国に生産拠点を設立



出雲工場

1965

1965年

「輸液・輸血セット」発売

*日本初の輸液・輸血用セット
(点滴セット)の完全 Disposable
化に成功



1969年

「血液バッグ」発売

*輸出ライセンスの取得により
海外での販売領域を拡大



1975

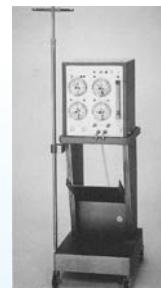
1974年

コイル型人工透析コンソール
「MC-5」発売

1976年

中空糸型人工透析コンソール
「GC-02」発売

*透析患者の急増を受けて
人工透析装置を自社開発



中空糸型人工透析コンソール
「GC-02」

1979年

気泡型人工肺発売

*自社製の人工肺を開発・販売



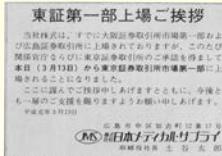
気泡型人工肺
「LH-310」「LH-210」

技術・製品開発

これまで私たちは、「かけがえない生命のために」という創業者の想いのもと、人と医療、双方の視点に立った医療機器やサービスをお届けしてまいりました。これからも当社の事業を通じて医療の質の向上と変革を支えてまいります。

1989年

東京証券取引所市場第1部上場



1994年

社名変更

* (株)ジェイ・エム・エスに社名変更



1993年 アメリカに販売拠点を設立

1993年 ドイツの販売代理店を買収

1994年 インドネシアに生産拠点を設立

2003年

(株)ジェイ・オー・ファーマ 設立

* (株)大塚製薬工場との共同出資会社で、プレフィルドシリンジ製剤を生産



2014年

フィリピンに生産拠点を設立

* 2016年春操業開始(予定)



創立50周年

1995

2005

2015

1988年

医薬品 腹膜透析液「ペリセート」発売

* 血液透析と腹膜透析の両製品群をラインナップ

2000年

ニードルレスアクセスポート「プラネクタ®」発売

* 感染・医療事故防止に貢献する代表製品の一つに



2001年

経腸栄養システム製品発売

* 経腸栄養分野でトップシェアを確立

2003年

人工心臓用遠心ポンプ「ミクスフロー」発売

* 血液ポンプの世界最小充填量を実現



2005年

血液透析装置「GC-110N」発売

* 透析装置操作の多くを自動化



2008年

輸液ポンプ「OT-8」シリーズ発売

2011年

「JMS舌圧測定器」発売

* 舌圧を測定する医療機器として日本で初めて承認を取得



2012年

針刺し事故防止静脈留置カテーテル「セーフウイングキャス®」

* 針が本体に収納される新構造の静脈留置カテーテル

2014年

抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド®」

※記載内容は当時のもの



創立50周年を機に 未来に向けさらなる進化と飛躍をめざします。

当社は創業以来、変わらず医療の質の向上と人々の健康を支えてまいりました。今後も多様化する医療ニーズと拡大する市場への対応力を強化し、創造性と独自性に富んだ製品の研究開発・生産・販売に一層尽力してまいります。

Q 50周年を機に
新たな取組みはありますか？

A JMSの存在意義と使命を再確認し、
理念体系を再編成しました。

医療の環境やニーズは時代と共に変化し多様化しています。この度、50周年という節目を超えて新たな道りを歩みだすにあたり、改めて当社の存在意義と使命を再確認し、会社の創業精神から社員の行動指針に至るまでの理念体系を再編成して『JMS WAY』と名付けました。

『JMS WAY』は私たちが使命を果たしていくうえで、全従業員
の意識・行動のベクトルを合わせるための指針です。この指針
のもと全従業員のエネルギーを結集し、JMSグループ各社とそ
の社員が一体となって次代への歩みを進めてまいります。

Q 創業時からの事業への想いや
姿勢をどのように受け継いでいますか？

A すべての事業活動の根底に据えて実践しています。

当社は「医療現場の課題解決」を常に念頭において活動してまいりました。創業当時から医療現場の安全性の向上と効率化の実現をめざし、現在も変わらず「医療現場の課題解決」を研究開発から生産・販売・サービスに至る全ての事業活動の根底に据えて実践しています。

そして今、感染・医療事故防止に貢献するニードルレスアクセスポート「プラネクタ®」や血液透析の手技の多くを自動化した血液透析装置「GC-110N」、海外で高いシェアを誇るAVF針（血液透析用針）など、数々の自社開発製品が医療現場で高い評価と信頼を得ています。



Q 国内外の事業環境はどのような状況ですか？

A 欧米各国や新興国での市場拡大が続いています。

近年、中国を筆頭にASEANなど新興国での市場の拡大が顕著になっています。経済力が増した中間所得層の伸展と並行して患者数が増加し、医療サービスや医療機器に対する需要が更に高まっ

ています。また医療水準の高い欧米などの先進国でも、医療の高度化や少子高齢化に伴う予防医学へのニーズの高まりなどから、医療市場の進化、拡大がみられます。

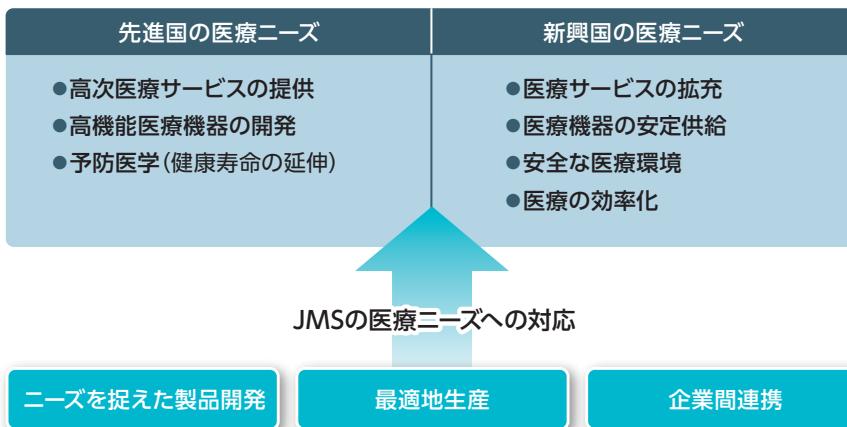
Q どのような事業戦略を展開していきますか？

A 国内外の医療市場の動向に対応した取組みを進めていきます。

当社は世界各国それぞれの医療事情に応じた事業戦略を展開しています。例えば先進国における高度な医療ニーズに対しては、抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド®」や針刺し事故防止静脈留置カテーテル「セーフウイングキャス®」など高付加価値製品を投入。また高齢化にともない健康寿命の延伸を支える予防医学のニーズに対しては、口から食べることをサポートする舌トレーニング用具「ペコぼんだ®」や「舌圧測定器」など新たな付加価値製品を提供していきます。

一方、新興国では、急拡大する医療需要に対応して医療従事者の負担軽減や医療現場の効率化が急務。医療現場で高い評価と信頼を得た製品をグローバルな最適地生産により安定品質と低コストを実現し提供していきます。

このほか異業種・同業種限らず他企業との事業提携を図り、企業間での技術融合を成し遂げ高品質かつ独自性のある製品を開発していきます。



舌トレーニング用具
「ペコぼんだ®」



針刺し事故防止
静脈留置カテーテル
「セーフウイングキャス®」

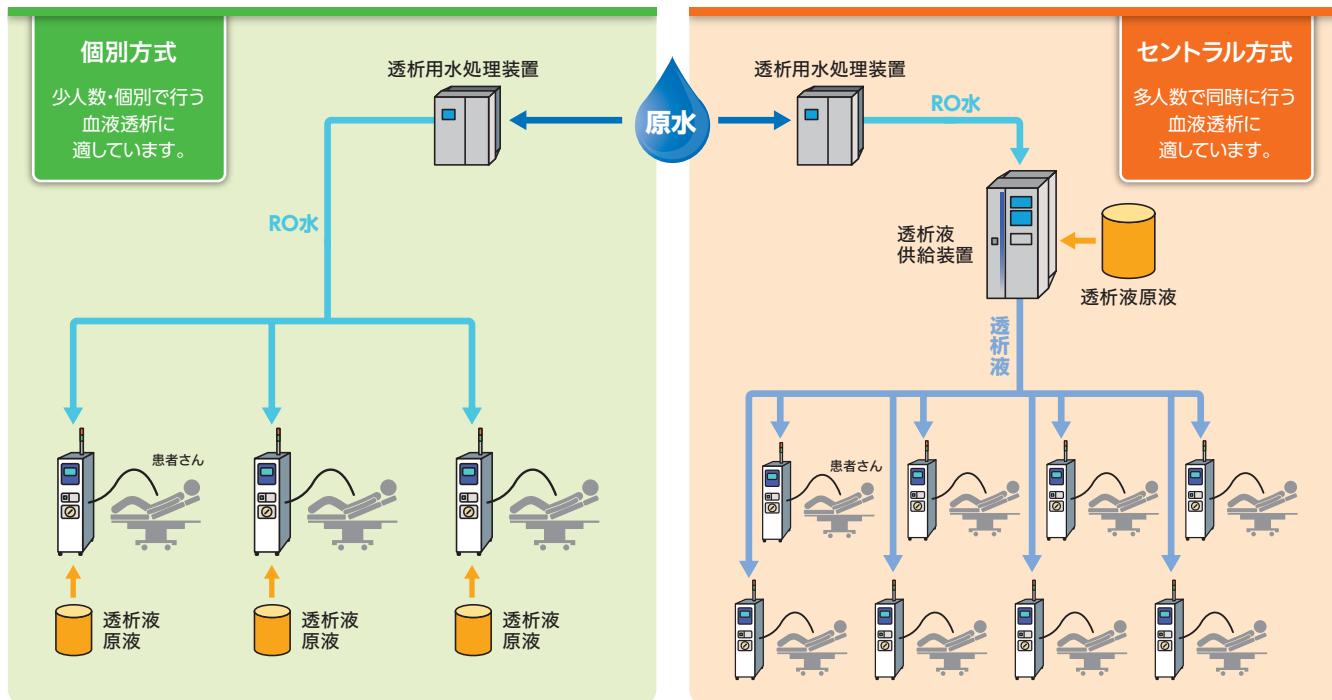
他社連携を含めた技術開発や製品販売の国際展開に注力しています。

▶ 中国初 セントラル方式(日本式)血液透析装置の販売許可を取得

慢性腎不全の血液透析療法に使用される透析装置の種類として、患者さん個々に透析液を供給する「個別方式」と複数の患者さんに対して同時に透析液を供給する「セントラル方式」があり、これまで中国では「個別方式」が採用されていました。

この度、当社が日本で普及している「セントラル方式血液透析装置」の販売許可を他社に先駆けて取得したことで、中国で

セントラル方式による血液透析療法が初めて採用されることとなります。当社が日本で透析機器の開発から販売・メンテナンスに加え、管理システムの提供までトータルに展開してきたノウハウを活かし、今後は中国においても透析療法の効率化に貢献してまいります。



中国の透析療法事情

現在、中国で透析療法を必要とする慢性腎不全の患者さんの数は約200万人とされ、そのうち透析療法の受療者は15%程度*と言われています。今後、経済発展等により透析療法を受ける患者さんの増加及びそれに伴う透析施設の増加、増床が見込まれています。*当社推計

▶ 医療用レーザー血流計「ポケットLDF®」の 販売開始

2015年1月、パイオニア株式会社と共同開発した携帯型の医療用レーザー血流計「ポケットLDF®」を販売開始しました。当装置は、非観血的に体表や手足の指、耳たぶ等の人体組織（皮膚表面）下を流れる微小循環*の皮膚灌流（血流量）を測定する装置です。皮膚表面から皮下組織に向けてレーザー光照射して測定するため生体を傷つけず、また片手に収まる小型サイズで持ち運びができます。

測定データは血液が体の抹消まで滞りなく届いているかを示す重要な生体情報であり、患者さんの血流障害の特定やその程度の評価を支援するために使用されます。

※微小循環：細動脈、細静脈、毛細血管



医療用レーザー血流計「ポケットLDF®」



(株)ジェイ・エム・エス 創立50周年記念事業

広島市の市立幼稚園にAED(自動体外式除細動器)を寄贈

当社は創立50周年を迎えるに当たり、2015年1月、地元である広島市のすべての市立幼稚園20カ所にAEDを寄贈しました。これまで市立幼稚園にはAEDが十分に行き届いておらず、この度の設置により、将来を担う園児たちや幼稚園の先生方はもとより、近隣の皆さまの安心と安全にもつながると考えています。また、今回の寄贈に対し広島市より感謝状をいただきました。



「ジェイパッドCU-SP1」



AED収納ボックス(設置時)

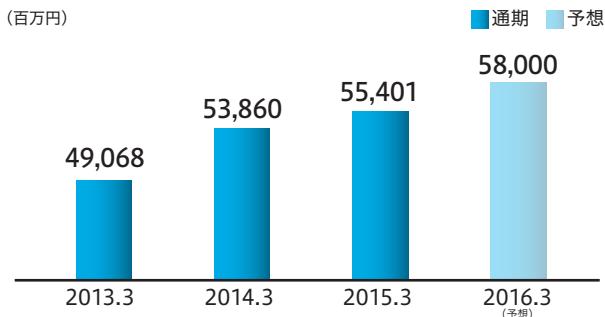


連結財務ハイライト

売上高

554億1百万円

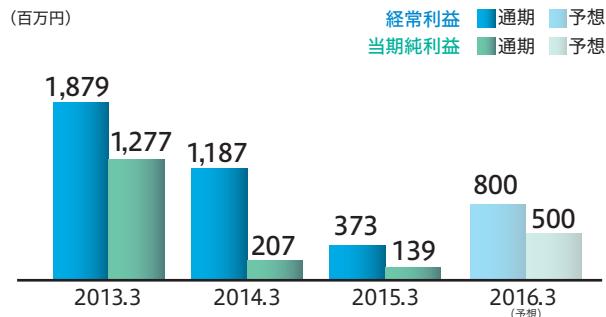
(百万円)



経常利益 当期純利益

3億73百万円
1億39百万円

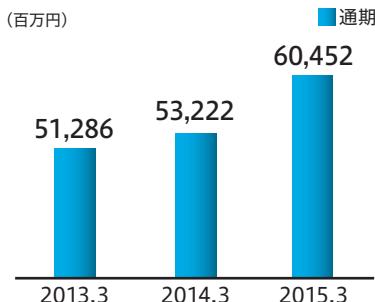
(百万円)



総資産

604億52百万円

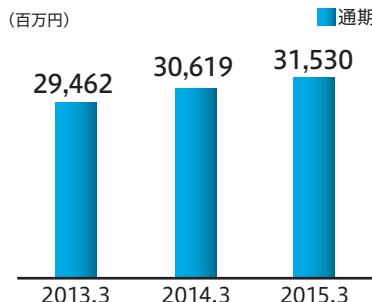
(百万円)



純資産

315億30百万円

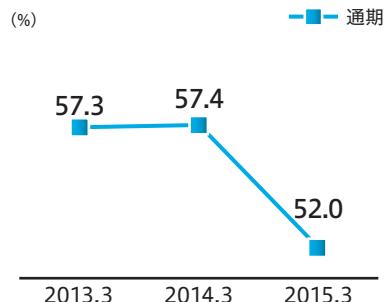
(百万円)



自己資本比率

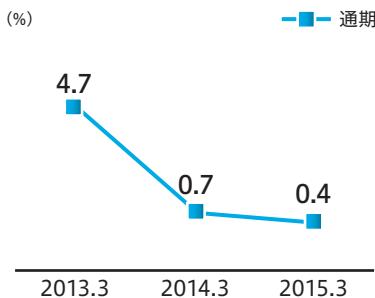
52.0%

(%)



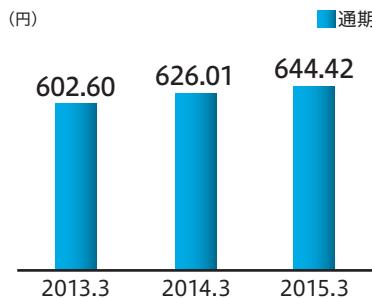
自己資本当期純利益率(ROE) 0.4%

(%)



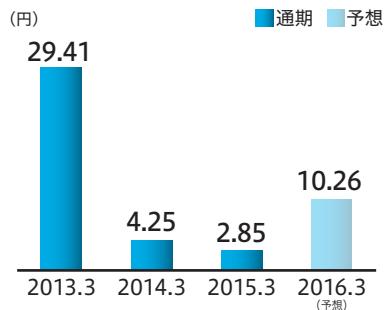
1株当たり純資産 644円42銭

(円)



1株当たり当期純利益 2円85銭

(円)



見通しに関する 注意事項

上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、2016年3月期の当期純利益につきましては、「企業結合に関する会計基準」等の改正に基づき、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しております。



代表取締役社長
奥窪 宏章

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第50期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、個人用血液透析装置の輸出が増加したものの、消費税増税前の駆け込み需要の影響が残り販売が伸び悩みました。海外においては、AVF針(血液透析用針)の販売が好調に推移しました。

この結果、連結売上高は、円安による為替換算の影響が有利に作用したことも加わり、554億1百万円(前連結会計年度比2.9%増)となりました。

一方、利益につきましては、増収となったものの、増産対応のための自動化設備の増設等に伴う償却負担の増加に加え、円安に伴う仕入コストの上昇等により、営業利益は3億78百万円(前連結会計年度比57.9%減)となりました。また、為替差損を計上したことにより、経常利益は3億73百万円(前連結会計年度比68.6%減)となり、投資有価証券

売却益や税金費用等を加減した結果、当期純利益は1億39百万円(前連結会計年度比32.9%減)となりました。

期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき4円とさせていただきます。これにより、年間配当金は中間配当金(1株につき4円)と合わせまして、1株につき8円となります。

さて、当社は、おかげさまで2015年6月12日に創立50周年を迎えることができました。

この節目の年を迎えることができましたのも、これまでさまざまな形で私たちを支えてくださった株主の皆さまをはじめ多くの関係者の皆さまのおかげです。心より厚くお礼申し上げます。

これからも、創業精神「かけがえのない生命(いのち)のために」、医療とともに働いているという使命感と同時に、この仕事のもつ社会的な責任の重さを常に自覚し、日本のみならず世界の医療に貢献できるよう、次の50年、100年を見据えて歩んでまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

【配当金の推移】



▶▶▶ 所在地別

日本

売上高 **404億12百万円**

(外部顧客への売上高 361億99百万円)



2014.3 2015.3

海外向けの個人用血液透析装置の販売が増加したものの、国内では消費税増税前の駆け込み需要の反動が影響しました。

東南アジア

売上高 **187億66百万円**

(外部顧客への売上高 95億68百万円)



2014.3 2015.3

欧米向けのAVF針の販売が増加しました。

中国

売上高 **38億96百万円**

(外部顧客への売上高 15億64百万円)



2014.3 2015.3

欧米向け及び中国国内向けのAVF針の販売が引き続き伸長しました。

セグメント利益 **1億5百万円**

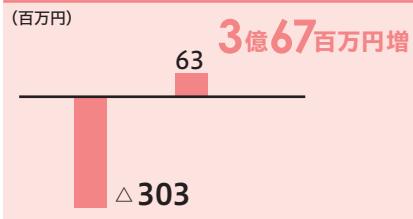


2014.3 2015.3

減収の影響に加え、円安による輸入金額の増加等により利益が減少しました。

(注)セグメント利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント利益 **63百万円**



2014.3 2015.3

労務費の増加があるものの、増収の効果により黒字となりました。

セグメント利益 **31百万円**



2014.3 2015.3

増収効果により利益が増加しました。

製品紹介

■ AVF針(血液透析用針)

血液透析を行う際に、シャント(動脈と静脈を接合した部位)から血液を体外へ取り出すための針です。



■ 血液透析装置「GC-110N」

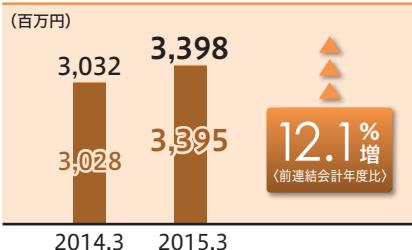
血液透析を安全かつ効率的に行うための装置です。人工腎臓用血液回路内などの洗浄や血液の脱血/返血など、透析時の複雑な機械操作の大部分を自動化することで、医療の効率化と誤操作防止に貢献します。



ドイツ

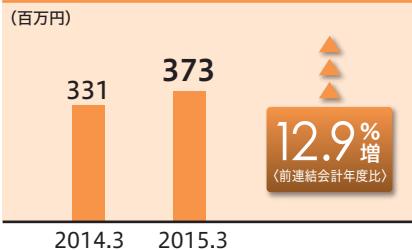
売上高 **33億98百万円**

(外部顧客への売上高 33億95百万円)



EU圏におけるAVF針の販売が好調に推移しました。

セグメント利益 **3億73百万円**



増収の効果に加え、為替による円建ての仕入金額の減少により利益が増加しました。

■ シリンジポンプ

シリンジ(注射筒)に充填された薬液を一定量、一定速度で持続的に患者さんへ投与する医療機器です。



アメリカ

売上高 **28億30百万円**

(外部顧客への売上高 28億30百万円)



中南米向けの血液バッグの販売が減少したものの、円貨換算等により増加しました。

セグメント損益 **△3百万円**



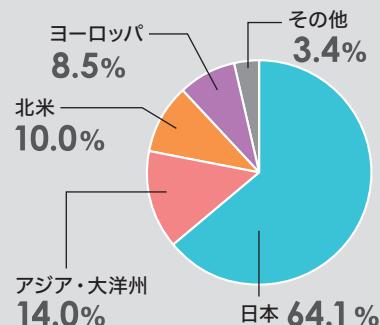
貸倒引当金繰入額の計上や前年同期における所有株式の配当金受取が当連結会計年度になかったため損失となりました。

■ 抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド®」

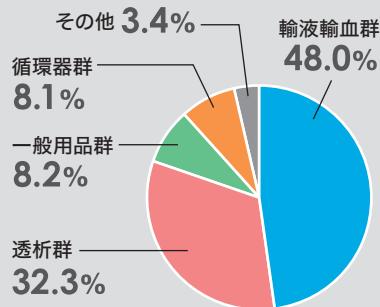
抗がん剤を調製・投与する際に使用される医療機器です。閉鎖系の機構により、薬剤飛散リスクを軽減し、医療従事者の方々の抗がん剤曝露から守ります。



》》》 地域別売上高構成比



》》》 システム別売上高構成比



輸液輸血群

輸液セット、経腸栄養システム製品、血液バッグ、成分献血用回路、シリンジ(注射筒)、注射針 他

透析群

血液透析装置、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液 他

一般用品群

医療用手袋、不織布製品 他

循環器群

膜型人工肺、ペースメーカー、人工心肺装置、人工心肺回路、血管造影用・治療用カテーテル 他

■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	30,766	34,431
現金及び預金	1,997	4,711
受取手形及び売掛金	16,211	16,233
たな卸資産	11,606	12,460
その他	950	1,025
固定資産 ①	22,456	26,021
有形固定資産	18,156	21,055
無形固定資産	730	627
投資その他の資産	3,569	4,337
資産合計	53,222	60,452

科目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
《負債の部》		
流動負債	18,342	20,609
固定負債 ②	4,261	8,312
負債合計	22,603	28,922
《純資産の部》		
株主資本	30,003	29,749
その他の包括利益累計額	523	1,668
少数株主持分	92	112
純資産合計 ③	30,619	31,530
負債純資産合計	53,222	60,452

■ 連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(2014年4月1日~2015年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,411	10,362	12,504	△274	30,003	354	169	△0	523	92	30,619
当期変動額											
剰余金の配当			△390		△390						△390
当期純利益			139		139						139
自己株式の取得				△2	△2						△2
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						173	970	0	1,145	19	1,165
当期変動額合計	—	—	△251	△2	△253	173	970	0	1,145	19	911
当期末残高	7,411	10,362	12,253	△277	29,749	528	1,140	—	1,668	112	31,530

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
売上高 ④	53,860	55,401
売上原価	40,237	41,948
売上総利益	13,622	13,452
販売費及び一般管理費	12,721	13,073
営業利益 ⑤	900	378
営業外収益	488	411
営業外費用	201	417
経常利益	1,187	373
特別利益	57	171
特別損失	263	140
税金等調整前当期純利益	981	404
法人税等	764	257
少数株主損益調整前当期純利益	217	146
少数株主利益	9	7
当期純利益	207	139

※2014年5月20日付で、ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン,INC.を設立したことにより、当社グループは、当社、子会社9社及び関連会社1社となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度	当連結 会計年度
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,206	2,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,751	△3,856
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑥	1,219	3,484
現金及び現金同等物に係る換算差額	169	184
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△2,156	2,713
現金及び現金同等物の期首残高	4,152	1,995
現金及び現金同等物の期末残高	1,995	4,709

POINT 解説

- ① 固定資産** (前連結会計年度に比べ35億64百万円増加)
・有形固定資産が増加しました。
- ② 固定負債** (前連結会計年度に比べ40億51百万円増加)
・長期借入金が増加しました。
- ③ 純資産** (前連結会計年度に比べ9億11百万円増加)
・為替換算調整勘定が増加しました。
- ④ 売上高** (前連結会計年度に比べ15億40百万円増加)
・11期連続増収。地域別では東南アジア及び北米向けの販売、システム別では輸液輸血群の販売が増加しました。
- ⑤ 営業利益**
(前連結会計年度に比べ5億21百万円減少)
・増産対応のための自動化設備の増設等に伴う償却負担に加え、円安に伴う仕入コストの上昇等の影響を受けました。
- ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー**
(前連結会計年度に比べ22億64百万円増加)
・長期借入金の増加によるものです。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

会社概要

■ 当社の概要

(2015年3月31日現在)

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従業員数	1,591人 (グループ総数 6,955人)

■ 役員

(2015年6月19日現在)

代表取締役社長	奥 窪 宏 章	監査役(常勤)	兼 口 昇 万
常務取締役	粟 根 康 浩	監査役	林 原 康 三
取締役	国 富 純	監査役	早 稲 田 幸 雄
取締役	森 川 重 美		
取締役	佐 藤 雅 文		
取締役	桂 龍 司		
取締役	井 口 明 彦		
取締役	池 村 和 朗		

※井口明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。
※林原康三氏、早稲田幸雄氏は、社外監査役であります。

株式概要

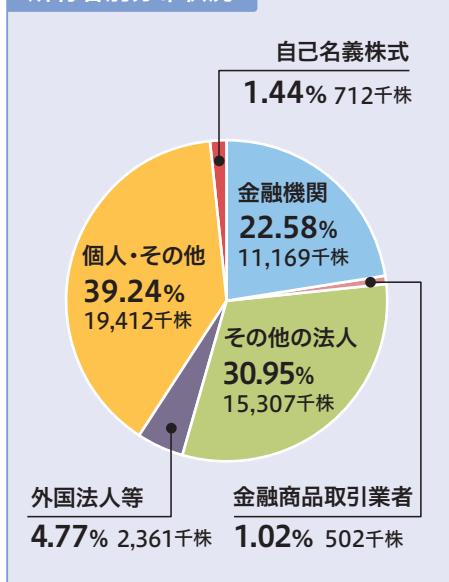
(2015年3月31日現在)

- 発行可能株式総数…100,000,000株
- 発行済株式総数……49,466,932株
(自己株式 712,214株を含む)
- 株主数 …………… 5,621名

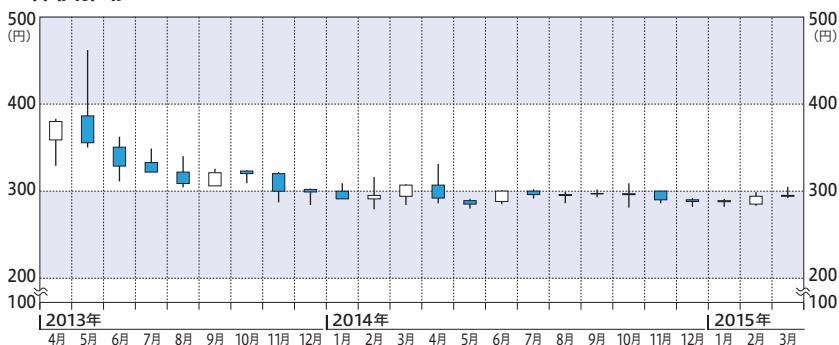
■ 大株主の状況(上位10名) (注) 持株比率は、自己株式(712,214株)を控除して計算しております。

【株主名】	【持株数(千株)】	【持株比率(%)】
株式会社カネカ	4,947	10.14
一般財団法人土谷記念医学振興基金	3,800	7.79
土谷佐枝子	2,015	4.13
社会福祉法人千寿会	2,000	4.10
株式会社広島銀行	1,790	3.67
第一生命保険株式会社	1,722	3.53
大下産業株式会社	1,142	2.34
JMS共栄会	971	1.99
西川ゴム工業株式会社	760	1.55
株式会社もみじ銀行	732	1.50

所有者別分布状況



■ 株価推移



海外ネットワーク

子会社

- ① 株式会社 韓国メディカル・サプライ
医療機器の製造・販売
- ② ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE. LTD.
医療機器・医薬品の製造・販売
<http://www.jmss.com.sg/>
- ③ 大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司
医療機器の製造・販売
<http://www.jmsdl.com/>
- ④ ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション
医療機器の販売
<http://www.jmsna.net/>
- ⑤ バイオニック・メディツィンテックGmbH
医療機器・医薬品の販売
<http://www.bionic-jms.com/>
- ⑥ PT. ジェイ・エム・エス・バタム
医療機器の製造
- ⑦ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.
医療機器の製造 ※2016年春 操業開始(予定)



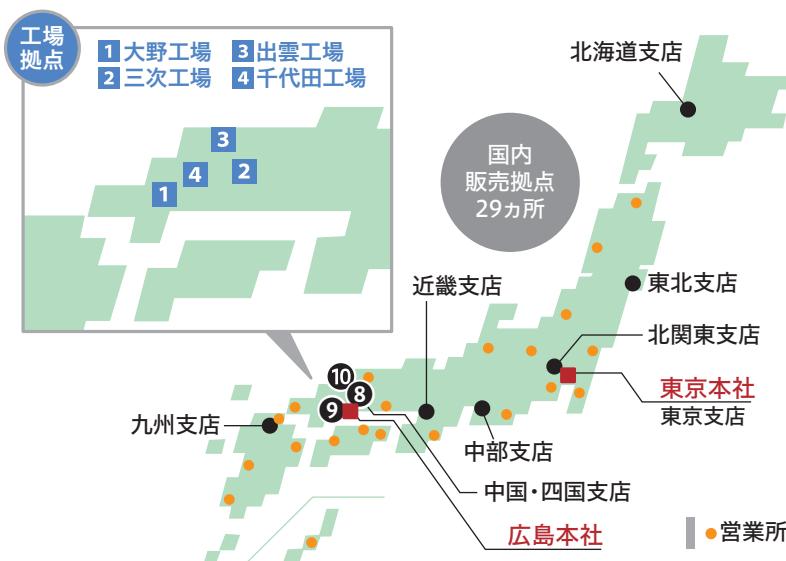
国内ネットワーク

子会社

- ⑧ ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
医療機器の修理等
- ⑨ 株式会社 大野
業務請負業

関連会社

- ⑩ 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ
医薬品の製造・販売
<http://www.jo-pharma.co.jp/>



株主メモ 証券コード: 7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <http://www.jms.cc/>



株式会社 JMS

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】
テーマ「未来に向かって羽ばたく」



美しい自然や街並、支え合い暮らす人々のモチーフが集まり鳥の形になっています。50周年を迎え今までも、これからも人々の健康的な暮らしを願いながら、明るい未来に向かって羽ばたいていこうとするJMSの姿勢を表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。